

第1号の発刊に寄せて

武 内 一 良

国際学部長

1899年、学祖下田歌子先生は千代田区麹町に私立実践女学校・女子工芸学校を創設されました。爾来、先生の理想とする女子教育は、脈々とその歴史を紡いできました。1903年に皇室の御料地を拝借し、ここ渋谷区常磐松の地に新校舎を建て学校を移転しています。この常磐松の地には江戸時代末期に薩摩藩島津家の下屋敷があり、その庭には源義経の母である常盤御前が植えたとされる松が1本残されていたようです。その樹皮は竜の鱗のようであり、その枝振りは鳳凰が翼を拡げたようであったと伝えられています。東京大空襲によって焼失しましたが、戦後新たに植えられています。

翌1904年に本学の校歌が制定されました。その後1932年に改詞と一部改曲が行われ、現在入学式と卒業式に歌われている校歌へと定着しました。その校歌の出だしは「常磐の松のしたかげに」とあり、いにしへの常磐松を偲ぶ一節となっています。そして、校歌の最後で私のお気に入りの一節、「にはへ八島の外までも」という呼びかけが登場します。この校歌は下田先生の作であり、先生の思いが込められています。常磐松の地で学んだ学生たちに対して、下田先生はこう呼びかけているかのようです。日本にとどまらず世界に向けて翔び立てと…。

2024年、実践女子大学に国際学部が設立されました。その設立の思いは、世界に向けて翔び立つ学生の育成です。英語を公用語として捉える世界観の中で、国際人を輩出する新たな試みが始まりました。さらに、世界に目を向けた下田先生のご意志は学生だけににとどまらず私たち教職員にまで及ぶものであるとの認識から、国際学部に関係するすべての方々から広く研究成果を集め、その知見を共有する場を設けるべく国際学部の紀要を学部設立初年度より開始することと致しました。嬉しいことに紀要発足初年度よりご寄稿を頂戴することができ、晴れて第1回目の紀要をここに無事編纂することができました。編纂にかかわった先生方をはじめ、ご寄稿いただいた皆様に対して厚く御礼申し上げます。

国際学部のカリキュラムは、言語・コミュニケーション群、国際文化群、日本文化群、地域・観光群の4つの柱から成り立っており、大変広い領域にわたっています。ちょうど世界を横から串刺しにした感じです。少し洒落た言葉で表現すると、学際的な研究の場とでも言うのでしょうか。この新たな学部の紀要発足を機に、私たちも多種多様な知見が集まる世界に向けて翔び立てみようと思います。一緒にいかがですか。

2025年3月

